

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ストラータ・ハイブリッド	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.475	△RG	0.050	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ストラータ・ハイブリッド

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：ストラータ

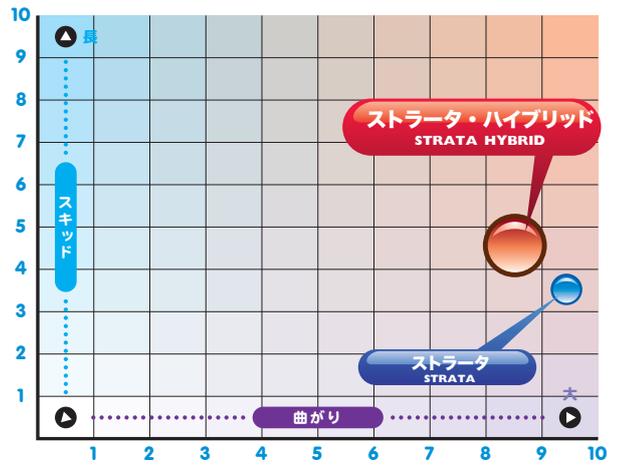
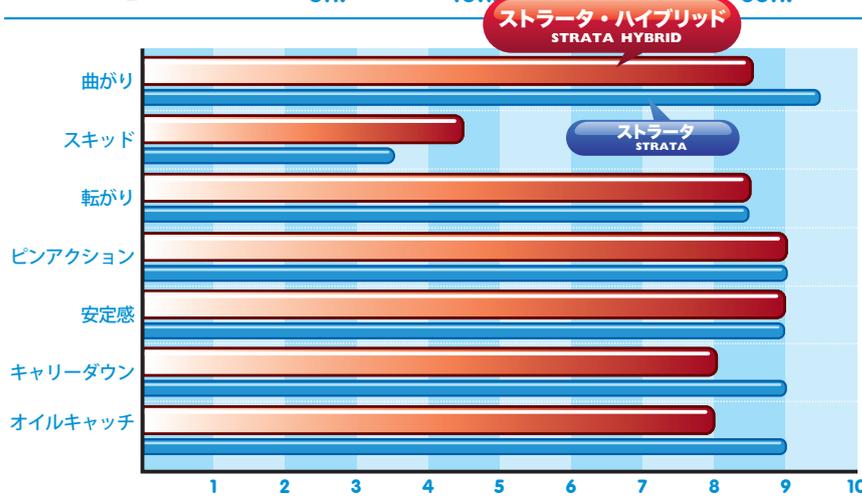
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

ステージが限定されない幅広いコンディションに対応可能なボール。

初代STRATAは強いSolid素材で手前のキャッチを活かしながら奥の動きも取ることができる、低い慣性と高めの△RGが特徴のあるスペックでした。Solid素材ゆえのキャッチ力が活かせる反面、噛む傾向が早期に現れることもありましたが、オイルが多いときより効力を発揮しました。今回のSTRATA HYBRIDはコアのスペックはそのままにQR-11 Hybrid(Quick Response)でやや軽めのスキッドと中盤から後半にかけて俊敏さを求めた設定で発売されます。カバーストックがHybridになったことでSTRATA HYBRIDは飛躍的に対応コンディションが広がりました。ミディアムヘビーからミディアムを中心に、初代STRATAの次やPROOFやPROOF HYBRIDの次にでもボールチェンジが可能です。初代STRATAも良いボールでしたが個人的にはHybridは非常にSTRATAコアとの相性が抜群だと思います。やや強めのHybrid素材が走り過ぎを抑えていますし、コア特有のモーションも中盤から後半にかけて独特な安定感と軸移動を魅せています。またSolidのSTRATAに比べ手前の薄いオイルの敏感さが薄れたのでラインを取りやすく感じます。表面の光沢があり、走るけど走りすぎず、バックエンドで戻る角度があると幅を取りやすくなります。

このSTRATA HYBRIDはバックエンドの最終局面で角がでるイメージのリアクションではなく、丸く柔らかくラインを描きます。その曲がり方はピンヒットまでどのように曲がり終わるか想像しやすく、軌道が読めるのでコンディション変化を読み取ることも長けたボールです。コンディションがイージーであればポケットをつく動作はボールを選びません。しかしタフなコンディションになればなるほどポケットにボールを集める事自体が難しくなります。しっかりと幅を取りながら軌道を読みやすくプロデュースするのがポウラーの役目であるならば、その時STRATA HYBRIDは貴方の心強い武器になるでしょう。

特記事項

初代STRATAのSolid素材からHybrid素材に変わったことで、ボール自体のイメージも一新し、扱いやすさの中にも幅広いコンディションに対応可能になりました。